

第3節 第3次産業と地域

みんなで考えてみよう!

時津町臨海部はどのように開発されたのだろうか?



1 新たな市街地の開発



(写真提供:長崎県土地開発公社)

写真は、時津町の臨海部に造成された埋立地である。

写真中央部の埋立地「時津第10工区」の面積は約33万㎡である。現在、いくつもの大型商業店舗やスポーツ用品販売の店舗が立ち並んでいる。また、それらの店舗の前には、広大な駐車場が用意され、収容台数は1400台にも及ぶ。これにより、自家用車で来店することが可能となり、休日はもちろん平日も、時津町ばかりでなく近隣の市町からも多くの人が集まる一大商業地区となっている。

工区	埋立面積(㎡)	着工
1(イ)	25,196	S42.4.20
1(ロ)	49,642	〃
2	60,284	S41.9.6
3	24,092	S41.8.1
5	15,534	S43.10.7
6	78,929	S46.3.1
7	147,938	S49.3.29
8	483,080	S51.5.18
2工区地先	23,421	S59.8.8
10	328,000	H9.2.6

時津町臨海部の埋め立て

は、上表のとおり、昭和41年から順次進められており、令和2年に完了した第10工区の埋立地を含めると、総面積は、約124万㎡にもなる。一連の埋立地の用途は、公共用地、工業用地、商業用地、住宅用地と多種にわたっており、時津町のまちづくりの一翼をになっている。



みんなで考えてみよう!

身近な地域でまちづくりの例をさがしてみよう。



2 国立公園がある市

雲仙市は、島原半島の西部に位置し、^{うんぜん}雲仙と小浜の二つの温泉をもち、年間延べ275万人(令和元年)を数える観光客を集めている。雲仙は、1934(昭和9)年、わが国最初の国立公園の指定を受け、豊かな温泉と美しい山々にめぐまれている。

雲仙では、自然浴ツアーなどの^{もよお}催しをおこない、多くの観光客を集める努力をしている。

小浜温泉では、^{こうれい}恒例の温泉湯祭りをはじめ、全国の^{はなびし}花火師たちが集まる^{だいきぼ}大規模な花火大会などの行事をおこなっている。

また、港の南側をうめ立て、イベント広場や緑地を整備するなど、小浜港臨海再開発事業を進めて、1994(平成6)年に完成した。



雲仙地獄 (提供:長崎県観光連盟)



小浜地区

(提供:雲仙市)

雲仙の旅館の人の話

^{ふげんだけ}普賢岳が噴火したあとは、まったくお客様が入らず、どうなることかと大変心配しました。私たちは、^{しょうたい}キャンペーンに出かけたり、旅行業者を招待したりして、安全であることを^{うた}訴えました。

一時は、修学旅行団や団体客も、噴火前の状態に回復してきましたが、現在、また、観光客数が落ち込んでいます。そこで知恵を出して工夫した取組を行い、お客様が集まるよう努力しています。

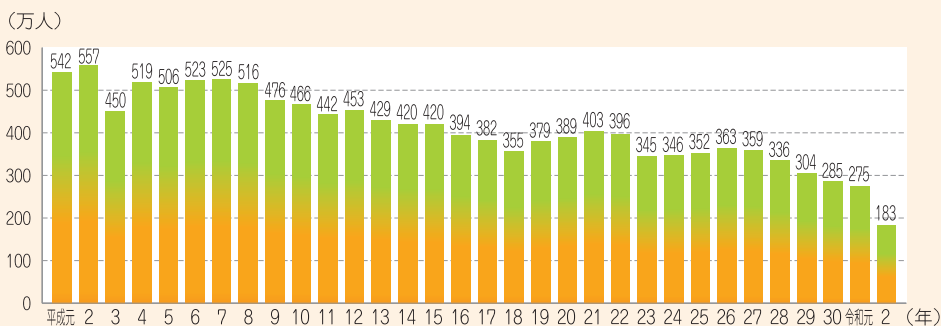


みんなで考えてみよう!

観光客数が伸び悩んでいるのは何が原因だろう?

みんなで考えてみよう!

長崎県全体の観光客数は増えているのかな? 資料編のグラフを見てみよう。



雲仙市観光客延べ数推移(長崎県観光統計課)

みんなで考えてみよう!
ハウステンボスと他の
テーマパークの違いは
何だろう?



3 新しい観光地

(1) ハウステンボス

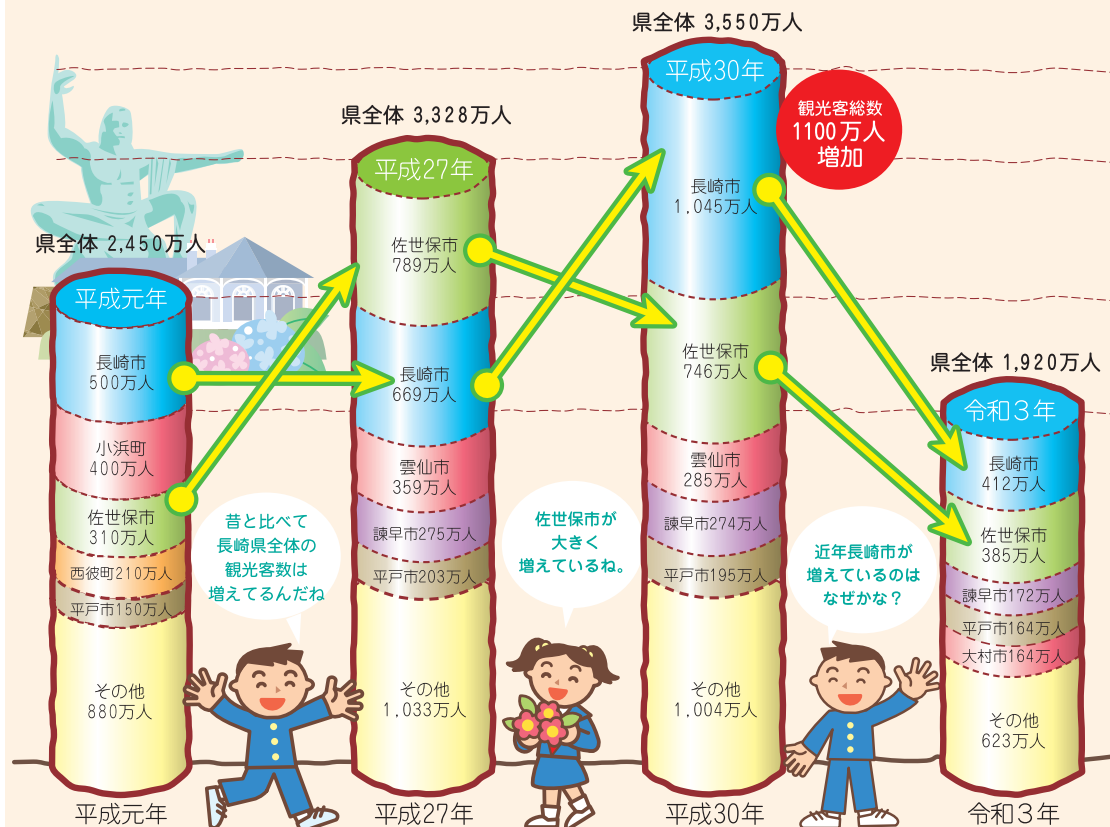
1992（平成4年），オランダ語で「森の家」という意味のハウステンボスが，佐世保市の南部にオープンした。ハウステンボスは，東京ドーム33個分という広い敷地にオランダの街並みや風景を再現した新しいリゾート施設であり，場内にはホテル，博物館や美術館，体験シアターなどもある。



©ハウステンボス/J-21093

ハウステンボスは，環境にやさしいテクノロジーを駆使したエコシティとして人と自然の共生を目指してつくられていて，施設内で生じた汚水は下水処理場に集め，浄化した後，水洗トイレや樹木の散水用水として再利用している。

2002（平成14）年には，関連会社のハウステンボス・技術センターが環境ISOを取得したり，緑化推進運動で総理大臣表彰を受賞するなど，ハウステンボスは，単なる観光施設にとどまらず，



長崎県の年次別観光客延べ数推移(長崎県統計年鑑)

MEMO

周辺の自然や住民とが一体となった一つの町として成り立っている。

観光産業を重要視している長崎県と佐世保市は、ハウステンボスと協力して、このリゾート地を発展させようとしている。



(2) 島原半島ユネスコ世界ジオパーク

ジオパークとは、地球がつくったすばらしい自然や文化を守り、未来へ伝えていくためのユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の取組を行っている地域である。2009（平成21）年に島原半島が、洞爺湖・有珠山（北海道）、糸魚川（新潟県）と併せて日本で初めて「世界ジオパーク」に認定された。ジオパークでは、特異な自然景観や学術的価値を持つ地形・地層を用いて、その土地や地球の成り立ちを知り、それらと私たちのかかわりを楽しく正しく学び、感じることができる。

島原半島ユネスコ世界ジオパークは、1990年～95年に噴火した雲仙普賢岳とその被災遺構、1792年の眉山の山体崩壊、約430万年前から始まった火山活動^{ひよく}でできた肥沃な大地が特徴である。



1792年に崩れた眉山と背後にそびえる雲仙普賢岳 (提供:島原半島ジオパーク協議会)